

(4) 単元名 「時こくと時間」の指導計画例（3学年）

○ 指導と評価の計画（総時数6時間）

次	ねらい	重点指導内容	展開の概要	教育目標との関連	評価
第 一 次 3 時 間	ある時刻からある時間経過したときの時刻を求めることができる。	◎ 数直線や文字盤を活用して、ある時刻から一定時間経過した時刻を求めさせる。 ○ 時刻と時間を区別して理解させる。	1. 既習事項の確認（時刻と時間） 2. ある時刻から一定時間経過した時刻を求める。 ○ 時計の文字盤を使って ○ 数直線を使って 3. 習熟を図り、まとめる。	B① b c B② c B③ c	（省 略 ）
	ある時刻から一定時間さかのぼ	◎ ある時刻から一定時間さかの	1. ある時刻から一定時間さかのぼった時刻を求める。	B② c	

○ 本時のねらい……ある時刻からある時間経過したときの時刻を求めることができる。

- ① 時刻と時間を区別して理解する。 ② 数直線や時計の文字盤を活用して時刻を求める。
③ ある時刻から一定時間経過した時刻を求める。

○ 教育目標との関連

- ① めあてをもって全力で最後までやる子 — B① b c（ねらいをもってがんばる）
② きまりを守り力を合わせて活動する子 — B② c（互に協力して問題を考える）
③ すじ道をたてて考え正しく判断する子 — B③ c（具体物からすじ道をたてて考える）

○ 指導過程

学習内容・活動	時	教師のはたらきかけ（教育目標との関連）	予想される児童の反応	留意点
・本時の学習課題を把握する 「時こくをもとめよう」	(分)	・時間や時刻に関係することを生活の中から見つけよう。 ・きょうは、時刻の求め方を勉強しよう。	・登校時刻 ・登校するまでの時間	・めあての大切さ
・学習の見通し	5	・模型の時計で、問題の	・長針を動かして調べ	

(5) むすび

教育目標を、各教科の目標に関連づけ、指導内容に教育目標を具体化することの必要性については前に述べたが、この実践例のように、本年度の重点目標を算数科の各学年の目標から、単元の目標まで具体化したことにより、教育課程の編成の際に、教育目標を算数科の目標に、的確に位置づけることができると思われる。

しかし、各学校の教育目標または重点目標のすべてを、各教科の目標に関連づけることには無理

があるので、教科内容の特性を考慮しながら、関連する教育目標を位置づけるようにしなければならないだろう。

そして、これをもとにして、単位時間の指導計画を立案する場合には、どの重点目標を指導過程のどこで具体化するかについて、指導方法も含めて細かく吟味されなければならない。そして、授業を実施しての評価を大切にしながら、計画の改善を常に心がけていく必要があるだろう。